

第6回岐阜県都市公園活性化懇談会 議事要旨

日時 平成29年5月19日(金) 14:00~15:30

場所 県庁 4階 特別会議室

1 開会

○座長

- ・昨年度、様々な貴重な意見を伺い、それが岐阜県都市公園活性化基本戦略の策定につながった。
- ・今回、その基本戦略に基づいて、県が策定した、平成記念公園活性化基本計画が取りまとめられたようなので、これについて県のほうから説明をいただいて、活発な意見を伺いたい。

2 事務局説明

○県

- ・「平成記念公園活性化基本計画(案)」の説明

3 意見交換

○県

- ・「体験」などソフトをどう充実させていくのか、公園全体を里山という言葉を考えながらどう統合するかが大切で、そのためにシステムを前に出していくソフトの展開が大切であり、どう作っていくのが今後の重要な議論。

○知事

- ・今後、観光地ではなく、都市公園として運営していくに際し、地に足を着けて考えてほしい。他の公園と差別化し、他の公園にはないここにしかないものは、一体何か。

○委員

- ・今回の都市公園法をはじめとする法改正は、これから財政的、人材的に様々な困難な課題がある中で、今後の公園の管理運営について、官、民間事業者、市民が連携して、皆で連携して魅力的なまちづくりを目指そうというもの。
- ・平成記念の里山は、里山と言っても荒廃していて、手を入れないといけない場所になっていると思う。そのことから、荒廃した里山の再生をやるということは興味深く、こういった点を強調しても面白い。今後、実施に向けて、空間のイメージを考えつつやって

ほしい。

○委員代理

- ・里山というコンセプトがあいまい。
- ・この公園は、景観が悪く、良い景観は、公園の外にある。根本的に作り物で、里山の中に里山を作るというのはどうなのかと思う。
- ・無料化は必要なことだと思う。また、個々の体験の料金設定についても見直しが必要。
- ・公園の現状分析について、いくつか違和感がある。見直しが必要ではないか。
- ・公園整備について、拡大するのではなく、現状で無理なものをスクラップする必要があるのではないか。
- ・他方で、平成も終わることから、昭和のものが残っているのはプラスと考えられないか。たとえば民間から昭和の物を集めるなどして古いものを残すことも考えてはどうか。

○委員

- ・サービスエリアから公園への誘導について、動線を強化してほしい。判り易い、立ち寄りやすい施設を作してほしい。
- ・銭湯は休館中であるが、市民にとっては身近で愛されている施設である。リニューアルされるということで期待している。
- ・屋根つき広場や森のようちえん、トレイルランなど市民の要望の多いものを前倒しして整備をしていただけると、これらの利活用を早めに進めやすい環境を整える。
- ・平成記念公園は、本物の里山に行く前のトレーニングというか、初見の人に体験してもらおう場所として整備してもらえるとよいと思う。
- ・宿泊施設や夜間の運営についても考えていただきたい。

○委員

- ・豊かな自然があることを活かして、公園でコンパクトな自然が楽しめる場所を作るということは意義があることだと思う。

○委員

- ・里山には、本物感が大切。そのためには、「循環性の確保」が必要。里山を体験できることが強調されているが、それが里山全体をどうカバーできているかが見えてこない。里山そのものをコンパクトに「里山システム」として学ぶ場所、住民が経済的にかかわることができるしくみができれば、新しい公園運営ができるのではないか。

○委員

- ・この公園に来たら「里山の暮らしのシステム」が学べるということができると良いと思

う。

- ・森のようちえんについて、子供のためだけでなく、「大人のための学びなおし」にも良いのでは。
- ・公園に来て、自分が体験していることは環境に良いことで、それを行うことで自分も健康になるということが体験できるようにできると良い。

○委員

- ・シバザクラを使った野辺の花飾りをできるとよいのではないか。

○委員

- ・どういった教育をするのかということを取り込めるとよい。園内の畑を菜の花やソバの花でいっぱいにするというのは体験にもなる。これらを組み合わせることで、エデュテイメント（娯楽+教育）が実現できるのではないか。
- ・里山があっても行かないのは、近づけないから。だから、公園の中で、里山の中に入って触れることができるように整備することは良いと思う。

○委員

- ・現状の囲い込み型のパークを変え無料化するという決定は、相当に大きい。
- ・課題としては、商業ゾーン、里山ゾーンというものが新しい商品価値を生みださないとプロモーションもできないし、ターゲットも、観光と違い毎日来てもらう場所に変えていかないといけない。そのため、商品開発や地域性も重要になり、新しいプログラム作りをしていかないといけないということだと思う。

4 まとめ

○知事

- ・里山とは何か、どういう里山を見せたいのか、楽しさ・驚き・学びなどをキーコンセプトとどう絡めてプログラムを仕立てていくのかを考える必要がある。
- ・昭和をトータルで見せる昭和村というものを作るつもりはなく、「昭和の里山」という切り口の中で残すべきものは残しながら、公園づくりを行っていきたい。

○座長

- ・入園料を無料化する、ハイウェイオアシスで稼げる状況を作り、その果実で公園の質を向上させていく、さらには法定協議会という組織の中で、多様な関係者が皆で責任分担しながらいい公園にしていく、というのが基本計画の骨子。
- ・新しい指定管理者がだれになるのか、どういった哲学を伝えるかが最も重要。